

## 事業名 「I Love ♡ 青梅」フォトコンテスト



### 1 実施団体

特定非営利活動法人・NPOサローネ

### 2 担当課

青梅市商工観光課

### 3 実施時期

平成 25 年 5 月から平成 26 年 2 月まで

### 4 参加者

コンテスト応募者 118 人、撮影会参加者 10 人、応募作品展入場者約 400 人

### 5 実施場所

撮影対象地は市内全域。応募作品展会場は青梅市中央図書館多目的室

### 6 事業の目的

青梅のまちのよさをカメラで再発見する。「青梅ファン」を増やす

### 7 役割分担

#### ・団体の役割

コンテストの企画運営（応募の呼びかけ、撮影会実施、審査会実施、応募作品展開催など）

#### ・担当課の役割

広報紙掲載の窓口、ポスター張りだし、審査会参加、展示会場の確保。

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

青梅市や多摩地域,23区、近県から 118人 286点の応募写真が寄せられた。それらを作品展として見ていただくことで、青梅の自然や文化、歴史がはぐくんできた、地域の素晴らしさを多くの人と共有できた

## 9 目標達成

事業の目標：

フォトコンテストの開催で青梅のまちを見直し、活気づけていく。

目標の達成具合：

一団体の小さな取り組みではあったが、応募作品のレベルが高く、作品展の入場者の感想などから、それなりの目標は十分達成できたと思う。

## 10 事業の実施内容

協賛企業の依頼、フォトコンテスト応募を呼びかけるポスター・チラシの作製と告知、張り出し、新聞・雑誌・広報紙への掲載、撮影会の開催（10月）、応募作品の募集（10-12月）、審査会（12月）、応募者全員の写真を展示する応募作品展の開催（2月 12-16日）など

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	2	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	1

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

昨年に引き続き、二回目の公募の写真コンテストを実施した。今回は昨年より、応募者も作品数も 1.5 倍に伸びた。撮影対象地を青梅市全域に広げたこと、市広報などで大きく扱っていただけたことが影響していると思われる。

我々は写真に対しては全くの素人集団だが、撮影会の講師や応募作品の審査を引き受けてくださった宮崎廷さんにいろいろと助けられた。宮崎さんが、我々の活動に理解を示してくださったことがフォトコンテスト成功につながった。

写真コンテストの開催は賞金などに資金が必要なうえ（助成の対象に当てはまらない）、開催に要する準備期間が長く、想像以上に主催者の手間や負担がかかる。我々のような市民の団体が写真コンテストを長く継続させていくのは、資金や人のやりくりがかなり厳しい。

カメラを持って青梅を訪れる人は数多いので、我々が2年間培ったコンテストのノウハウを今後、青梅市の事業に生かしていただけたらありがたい。今回の応募写真を眠らせるのではなく、活用方法を探っていきたい。

## 13 その他

残念なのは、イベント時の天候に恵まれなかったこと。

10月の釜の淵公園撮影会は大雨、2月の応募作品展は都知事選の影響などで会期を変更、2月中旬の開催にこぎつけたが、寒さと大雪に見舞われ、観客数がやや少なめだった（それでも400人に見ていただけた）。

非常に応募作品のレベルが高かった。入賞者だけでなく応募者全員の118点の写真を展示したが、展示作品全体から、「青梅のよさ」を浮かび上がらせることができた。入場者からは「青梅にこんないい所があるのを知らなかった」という声が多く聞かれた。

もっと多くの人に見ていただきたかった。